

アプライパディート粒剤

[シアントラニリプロール・チアジニル粒剤]

農林水産省登録 第23751号

有効成分 シアントラニリプロール…0.75%
チアジニル…12.0%

性 状 類白色細粒

安全性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称） 危険物：- 有効年限：5年 包装：3kg×6、10kg×1 RACコード：殺虫[28]殺菌[P3]

特長

- 播種時覆土前処理により、いもち病、白葉枯病、水稻主要害虫を同時防除できる。
- アプライは稲をいもち病、細菌病にかかり難くする作用性（病害防除機能の増強）を有し安定した効果を示す。また、耐性菌出現リスクが低く、既存剤に耐性のいもち病にも有効である。
- パディートはニカメイチュウのようなチョウ目害虫に対して、高い効果と優れた効果持続性を発揮する。また、イナゴ類や既存剤に対して抵抗性の発達したイネミズゾウムシやイネドロオイムシに対しても高い防除効果を発揮する。

効果、薬害等に関する注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきる。
- 所定量を秤量し、均一に処理する。
- 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用する。また本剤を処理した床土または覆土を放置しない。
- 本剤の使用にあたり、極端な低温または高温条件下での育苗では生育抑制を生じるおそれがあるので、適切な温度管理につとめる。
- 本剤の処理により、水分の極端に多い特殊な育苗条件（プール育苗等）や培土種によっては軽微な薬害が認められることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 本剤の処理により育苗期間中に黄化症状が認められることがあるが、移植後回復するので通常の管理を行う。
- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾糞として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整する。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意する。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布する。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

安全使用上の注意事項

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。

水産動植物に対する注意事項

- この登録に係る使用方法では該当がない。

適用内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニリブロールを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g 高密度には種する 場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1 箱当り50～ 100g)	は種前	1回	本剤の所定量を 育苗箱の床土又は 覆土に均一に 混和する。	1回	3回以内 (移植時 までの処理は1回以 内、本田での散布は 2回以内)
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ニカメイチュウ ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ イネヒメハモグリバエ イナゴ類 コブノメイガ イネツトムシ ヒメトビウンカ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g 高密度には種する 場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1 箱当り50～ 100g)	は種時覆土 前		本剤の所定量を 育苗箱の上から 均一に散布す る。		

製品写真



最新の登録内容はこちら

